

社会学Ⅱの概要と時間外学習の促進

社会科教育・魁生由美子

1. 授業の基本情報・概要

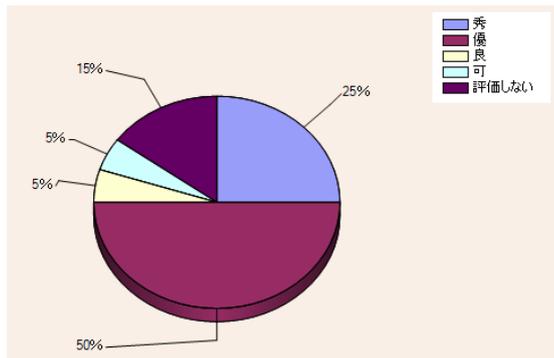
本授業の目的は、社会学理論の基礎を学習し、近代社会の成り立ちについて理解すること、次に、近代社会が内包する積極的側面と消極的側面について、現在の社会問題とかわらせて考えることである。

本授業の到達目標は、受講生が近代化の過程で生ずるさまざまな社会変化を理解することである。また、近代社会の形成過程で生じる社会変化とは、具体的にどのような現象であったのか理解し、現代社会の諸問題と結び付けて議論することができることとして設定した。

3 回生以上を対象とする社会学 2 は、2 回生以上を対象とする社会学 1 を履修したのちに履修する。社会学 2 の合格者は、4 回生以上を対象とする社会学 3 の履修ができる。

2020 年度の本授業は、コロナ感染予防対策のため全回数、非同期遠隔型で行った。従来、印刷を配布していたレジュメをパワーポイント版に増補改訂を行い、解説音声を加えたもの、おおむね 80 分程度のデータを Moodle に掲示するかたちで授業運営を行った。グラフや写真を鮮明に提示できる点は、パワーポイントの利点である。出欠確認を兼ねて、毎回の授業で小テストやコメントを課した。

履修者数は 20 名であった。内訳は中等教育コース社会科教育専攻 5 名、初等教育コース小学校サブコース 13 名、中等教育コース保健体育専攻 6 名、特別支援教育コース 1 名である。



成績評価は授業への参画を考慮しつつ期末試験の結果に重点を置いて行った。期末試験はキーワードの復習により、完全回答できる内容であった。成績は秀 25%、優 50%、良 5%、可 5%、評価しない 15%で分布していた。

2. 授業評価・授業研究の内容

授業時に実施した出欠確認兼課題から授業評価にかかわる部分を以下列記する。

○「障害」というテーマは学齢期に収まるものではなく、生涯通して誰もが考えていかなければならないテーマであると感じる。この「障害」については「障害者問題」と表記することは私自身はあまり良くないのではないかと思う。障害のある方の問題ではなく、障害のある方を支え方を考える、インクルーシブを掲げる社会の現状の問題点を探るという意味合いで障害に関わる「問題」という言葉を私は使っていきたいと思う。

○コロナに感染し発症するリスクは誰もが負っている。そのため、いつ自分が差別される対象となってしまうのか、特に地方ではそうならないように自分事として感染予防対策に気を配っているところである。誰もが同じ境地にあるとき、仮に他者が明らかに悪であると判断される行為をしたとしても、私たちはその人を受け入れることができるかという大きな課題が突き付けられる。その人の悪であると判断される行為を許容・容認したりあるいは黙認したりすべきであるという訳ではない。その人自身を受け入れることができるか否かという課題である。

○有閑階級では、様々な制度的手段が用意されている。大学進学したいのであれば、受験勉強するための塾に通うことができたり、私立学校に中高から通い内部進学することができたりする。しかし、勤労階級では、自力で何とかするしかないのである。手段がないため、あきらめるもしくは奨学金を借りて進学はできても、大学の間は苦学生となり、水商売をしたり、アルバイトをいくつも掛け持ちしたりして苦勞を強いられるのである。生ま

れながらにして持つものによって苦勞の度合いが全く変わるので、教員になった時に下の階級にいると思われる家庭こそ様々な手段についての情報を伝えられるようにしていきたいと考える。